

# 文末形式「ジャナイカ (ジャン)」と「嘛」の運用上の違いの考察

—情報構造の観点から—

王 瓊

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

キーワード：文末形式 情報構造 コーパス 日中対照

## 要旨

本稿では、意味的にほぼ対応すると見なされている、日本語の「ジャナイカ (ジャン)」構文と中国語の「嘛 ma」構文を情報構造の観点から対照する。分析には、コーパスから得られた例を用い、「近/遠」、「既知/未知」、「旧/新」という三つの基準で分類を行う。その結果、「ジャナイカ (ジャン)」は新情報をマークすることが多いのに対して、「嘛 ma」のマークする情報は新旧比率に偏りがあまり見られないことがわかった。また、「ジャナイカ (ジャン)」は、話し手にとっての近・既知情報であると同時に聞き手にとっての遠・未知情報という、情報的に話し手が聞き手より優位であるものと共起しやすい傾向が見られる一方で、「嘛 ma」が用いられる際には、聞き手の知識状態を問わないという違いが示された。「嘛 ma」は、「ジャナイカ (ジャン)」に比べて先行文脈から復元できる情報にも積極的に使われるのである。それぞれの文末形式を伴って提示される情報の違いは、木村・森山 (1992) が指摘する「気配り」・「対人恐怖症的な」日本語と「自立的」・「一方的」な中国語という日中両言語の特徴を反映していると考えられる。

## 1. はじめに

日本語の文末表現「ジャナイカ (ジャン)」と中国語の語気助詞「嘛 ma」は意味的にほぼ対応すると見なされている。「嘛 ma」に関して、中日辞書には、文末に使われる場合には、「当然で誰でもわかるということ」または「勧めや阻止の語気」を表すことが挙げられており<sup>1</sup>、呂 (1992:258) による「本来こうあるべきだ、あるいは事情・理屈がはっきりしていることを表す」や「希望や忠告を表す」という記述も同趣旨である。次のように、「嘛 ma」で終わる文の日本語訳に「じゃないか」が使われていることも両者の類似性を示唆している。

(1) a. 人が多ければ、力も大きいじゃないか<sup>2</sup>。

b. 人 多 力量 大 嘛。  
人 多い 力 大きい ma

【呂 (1992: 258)<sup>3</sup>】

<sup>1</sup> この語釈は『中日大辞典 第三版』(2010:1139)のものである。『講談社 中日辞典 第三版』(2010:1079) は「①明確な肯定を表す ②制止や希望を表す」としている。

<sup>2</sup> 下線は筆者によるものである。本稿では中国語の文末語気助詞のグロスにピンインを用いる。

<sup>3</sup> 例文の出典を【 】で示す。出典のないものは作例である。

(2) a. 行くなと言われたら、行くことないじゃないか。

b. 不 让      你      去,      就      別      去      嘛。

させない    あなた    行く    すると    しない    行く    ma

【呂 (1992: 258)】

しかし、「嘛 ma」と「じゃないか」は、常に同じように使用できるわけではない。たとえば、次のような例の場合には、聞き手も「彼」が行こうとしていたことを知らなければ「じゃないか」の使用は不自然である。

(3) a-1. 私にどうしろと言うのか。彼自身が行こうとしていたんだから。

a-2 <sup>?</sup>私にどうしろと言うのか。彼自身が行こうとしていたんじゃないか。

b. 我    有      什 么    办 法, 他    自 己    要      走      的    嘛。

私    持 っ    何      方 法    彼    自 身    し ょ う    行 く    の    ma

また、聞き手のことを気づかって休むように勧める次の例も「じゃないか」の使用は不自然である。

(4) a-1. 疲れたら一休みしなよ。

a-2 <sup>?</sup>疲れたら一休みするじゃないか。

b. 累 了      就      休 息    一 下      嘛。

疲れたら    すぐに    休む    ちょっと    ma

本稿はこのような違いに注目し、情報構造の観点から二つの文末形式を比較対照する。2節で先行研究を概観した上で、3節ではコーパスから得られた例文を3つの基準によって分類する。4節ではコーパスデータに見られる傾向を踏まえて「ジャナイカ (ジャン)」と「嘛 ma」の違いを考察する。5節はまとめである。

## 2. 先行研究

日本語の「ジャナイカ (ジャン)」と中国語の「嘛 ma」の対照を行った先行研究として、木村・森山 (1992)、井上 (2015)、井上 (2016)、井上・黄 (2017) などが挙げられる。

木村・森山 (1992) はこの二つの文末形式だけ扱ったものではないが、聞き手情報配慮の枠組みで情報伝達の観点から両者を分析している。彼らによれば、「ジャナイカは、...ひとたびある判断を成立させておいて、その判断を自分で否定的に問い直して疑う（対話においては疑ってみせる）という意味である。...本質的には、当該情報の把握をもう一度改めて問い直すという意味である。改めて問い直すことが、聞き手に向けられれば、聞き手に情報のチェックを強く要請することになる」（木村・森山 (1992: 244)）というものである。「中国語の確定情報文の ma」、つまり「嘛 ma」についても、「話し手にとって既に認定済みの命題を、聞き手も認定可能

であることを踏まえた上で、敢えてその認定を強く迫る（つまり確認を強いる）聞き手情報依存の形式である」という同様の分析が為されている。木村・森山 (1992: 264) は日本語・中国語の文末形式は同じ枠組みで記述できると主張しているが、「情報保持関係の認定の仕方——どういう場合に聞き手の情報に依存するのか、また、しなければならないのかという問題——」つまり、運用上の問題に関しては、「個別言語の特性」によるものであるとしている。木村・森山 (1992: 268) は情報の保持の違いに注目し、それぞれの用法を次のようにまとめている。

表 1.<sup>4</sup>

情報内容に 対するとらえ方	日本語	中国語
話し手情報を優先 （聞き手を誘導）	ジャナイカ 押し付け型の確認のダロウ	ma（嘛）
同一情報を志向	ネ	ba（吧）
聞き手情報を優先 （話し手自身を誘導）	伺い型の確認のダロウ	

網掛け部分から分かるように、「ジャナイカ（ジャン）」と「嘛 ma」は情報内容に対するとらえ方の点で等しい。しかし、運用上の違いとして、「日本語の場合、聞き手の有する情報を無視できるような言語環境にない限り、聞き手に当該内容に関する情報があると話し手が予想する場合、必ず、話し手はそのことを形式として表さなければならない」と同じ木村・森山 (1992: 268) で指摘されている。聞き手の有する情報が無視できるかどうかという違いに関しては、神尾 (1990) が指摘する、当該情報に対する話し手・聞き手の近接性が関わるとされるが、詳細な分析は行われていない。木村・森山 (1992) では、「中国語でも、説得などの談話運用上の方略として、聞き手の情報に依存することもできるわけであるが、そうした具体的な分析については次の機会に譲らざるを得ない」とされている。また、井上 (2015: 5, 2016) は文末形式の「ジャナイカ（ジャン）」と「嘛 ma」は概ね対応することを認めた上で、「日本語の確認文は同意要求的な意味をとともうが、中国語の確認文はそうではない」と木村・森山 (1992) に対する修正案を提示している<sup>5</sup>。要するに、「ジャナイカ（ジャン）」においては、話し手の認識のあり方だけでなく聞き手の認識のあり方も深く関与するが、「嘛 ma」においては、話し手の認識のあり方のみが関与するということである。井上 (2015, 2016) は、木村・森山 (1992) の枠組に概ねしたがって、両言語の違いを説明しようとしているが、単文レベルの分析がメインであり、運用上の違いは明らかにされていない。

<sup>4</sup> この表は、木村・森山 (1992: 268) から引用したものである。なお、井上 (2015: 2) にも同じ表が挙げられている。網掛けは筆者によるものである。

<sup>5</sup> 井上 (2015: 3) は「『P 嘛』は、『想定外の発言や状況が生じたために、何もなければ意識する必要はない自明の事柄 P を意識せざるをえない』という気持ちを表す」と指摘している (cf. 井上 (2016), 井上・黄 (2017))。

本稿は、日本語の「ジャナイカ (ジャン)」と中国語の「嘛 ma」の運用上の違いがどのようなものなのかを明らかにするために、コーパスから得られた口語的なデータを使用し、文脈との関わりも含めて情報構造の観点から対照する。

### 3. 三つの基準による分析

#### 3.1. 使用するコーパス

分析には三つのコーパスを用いる。日本語は日本語日常会話コーパス (CEJC) のモニター公開版と日本語話し言葉コーパス (CSJ) を使用し、中国語は北京大学 CCL 語料庫 (CCL) を使用する<sup>6</sup>。分析には、日本語と中国語のコーパスから得られた、「ジャナイカ (ジャン)」76 例と「嘛 ma」209 例を用いる。例文の表す情報と前後文脈を確認し、「近/遠」、「既知/未知」、「旧/新」と三つの基準によって分類する。それぞれの分類の詳細については次節以降で順次述べる。

#### 3.2. 情報のなわ張り理論に基づく分類

「近/遠」という基準設定は情報のなわ張り理論 (神尾 1990, 2002) に基づくものである。情報のなわ張り理論では、話し手 (S) および聞き手 (H) と文の表す情報との間に近/遠という一次元の心理的距離が成り立つとされる。情報と話し手および聞き手との関係は、最終的には話し手の認識ないし判断による。神尾 (2002) や楊 (1994) では、情報と話し手の距離が「近」である場合に直接形が用いられ、情報と話し手の距離が「遠」である場合に間接形が用いられるとされている。しかし、神尾 (1990) は、「直接形」は「確定的な断言の形を取る文形」、「間接形」は「断言を避けた不確定な文形」とであると述べているものの、「直接形」に該当する形式は挙げられておらず、「間接形」とされる「らしい」、「って」などの文末形式が付いていないことが「直接形」であることの基準となっている。すなわち「間接形」を経由して「直接形」であるかどうかを判断しているということである。ここには、「直接ね形」と「間接ね形」のように、同一の形式であっても「直接形」と「間接形」のいずれにも分類されることがあるために、「直接形」と「間接形」の定義は明確なものとはいえないという問題がある。それに対して、岩畑 (2010: 70) は「話し手あるいは聞き手の情報のなわ張りおよびその基準のみ設定」する修正案を提示している。本稿ではこの指摘を踏まえ、さらに情報のなわ張り理論に依拠して形容詞の分析を行った野田 (2013) を参照し、語彙や文の意味によって情報のなわ張り関係を考えることにする。話し手及び聞き手と文の表す情報との近接関係に関しては、以下で述べるように、神尾 (1990) の四分割モデルを使用する。

神尾 (1990:22) によれば、情報は下記表 2 のように四分類できる。話し手・聞き手と情報の関係を「近」または「遠」で示し、括弧内に話し手・聞き手の順で情報との関係を表示すると、

<sup>6</sup> 日本語日常会話コーパス (CEJC) のモニター公開版と日本語話し言葉コーパス (CSJ) という二種のコーパスを用いたのは、「ジャナイカ (ジャン)」の用例が少なかったためである。「ジャナイカ」、「デハナイカ」、「ジャン」などの形式をまとめて「ジャナイカ (ジャン)」としている。CCL コーパスはインターネット上で公開されているものである。口語表現を分析の対象とするため、「type:口語」と設定して検索した。

それぞれ A（近遠）、B（近近）、C（遠近）と D（遠遠）となる。

表 2. 情報と縄張りの関係

		話し手のなわ張り	
		内（近情報）	外（遠情報）
聞き手の なわ張り	外（遠情報）	A	D
	内（近情報）	B	C

情報の近・遠の判断については、神尾（2002:32）の挙げた下記の四種類の基準に従う。(5) の基準を一つでも満たしていれば「近」情報となり、それ以外の情報は「遠」情報となる。

(5) なわ張り判断基準

- ① 内的直接経験を表す情報
- ② 外的直接経験を表す情報
- ③ 自己の専門または熟達領域に関する情報
- ④ 自己の個人情報

神尾（1998:31）によれば、「内的直接経験」とは、話し手または聞き手の内部において感じられる痛みや吐き気などの感覚、喜びや悲しみなどの情緒、記憶や信念、判断などの心理作用のことである。それに対して、「外的直接経験」とは五感を通じて外部から認識される直接体験である。例えば、次の例文のいずれも話し手にとっての「近」情報とみなされる。(6a) は内的直接経験に関わり、(6b) は外的直接経験に関わる。

(6) a. わたし、吐き気がする。

b. わたしは交通事故を見かけた。

【神尾（1998）】

コーパスから得られた日本語「ジャナイカ（ジャン）」及び中国語「嘛 ma」の用例を、話し手及び聞き手の情報との心理的距離を基準に分類すると、それぞれのタイプの割合は表 3 のようになる。

表 3

番号	情報との距離	ジャナイカ	嘛 ma
A	近遠	39%	29%
B	近近	33%	41%
C	遠近	11%	24%
D	遠遠	17%	6%

A と B は共に話し手に「近」であり、C と D は共に話し手に「遠」であることで、その間に線を引いているが、「ジャナイカ (ジャン)」と「嘛 ma」の上下の数字を比べてみると、両者ともに話し手に「近」と判断される情報と共起しやすいことがわかる。聞き手と情報の近接性も併せると、「ジャナイカ (ジャン)」は聞き手に「遠」となる情報をやや多くマークするのに対して、「嘛 ma」は聞き手にも「近」である情報を好むように見える。

それぞれのタイプの例文を挙げると、次のようなものがある。例えば、(7) のように、記憶にある自分の個人的な達成感について語る a も、自分の脳内を検索していると思われる記憶の想起の b も、話し手の内的直接経験を表す情報と考えることができる。a の話し手は運動音痴である自分が決勝にまで進出し、さらに優秀選手に選ばれるという人生で一番輝いていた瞬間について長々と話を続け、b の話し手は「早く言ってよ、私をからかったの？」という聞き手の文句に対して今思い出したと弁明する。いずれも話し手の記憶の操作を観察できない聞き手にとっては「遠」情報であると考えられる。

A (近遠) :

(7) a. えー、表彰式で優秀選手の一人に選ばれて、おーこれは凄い、俺輝いてるじゃん。

【CSJ】

b. 我 这 不 也 刚 想起来了 嘛?

私 こう ない も 今 思い出した ma

(私だって、それで、今思い出したんじゃない。)

【CCL】

(8a) は、二人の日本人が日本語について雑談している場面である。日本語のカタカナを子供に、特に海外の子供に教えるのが難しいという話題展開の中、通常は角ばっているはずのカタカナを子供たちが「丸く書きたがる」と話し手が a のように発言する。会話の参加者は二人とも日本人なので、「カタカナは基本角々」は二人にとっての「熟達領域に関する情報」で「近」であると考えられる。b では、男女平等に関する議論を目撃した話し手が、話に割り込もうとし、「今こ賑やかだな」と話しかける。話し手も聞き手も同じ場所にいるので、同じ外的直接経験を得ることが可能である。

B (近近) :

(8) a. カタカナって基本角々じゃん。

【CEJC】

b. 啊, 挺 热闹 嘛。

おい 結構 賑やか ma

(おい、ずいぶん賑やかじゃないか。)

【CCL】

数は少ないが、日本語と中国語ともに、聞き手に質問する形で情報を確認する例が見られた。

(9) の a は聞き手の花粉症を話題にしている親子の会話から採ったものである。症状が現れた

時期から考えると、ヒノキ花粉だけでなく、スギ花粉にも反応したと考えられるため、話し手は「両方」という疑いを聞き手に伝えている。b の例はチャリティーコンサートで歌を披露するメンバーに関する会話であり、同じ職場の人も歌うと名乗り出るのを聞いて、聞き手にこの二人も誘ってみたいと提案するものである。二人称を主語にとり、聞き手の判断について尋ねているため、話し手にとっては「遠」であり、聞き手にとっては「近」と考えられる。

C (遠近) :

(9) a. 両方じゃないか。 【CEJC】

b. 你 把 那 米继红、蕾丝 都 可以 叫上 嘛?

あなた 持つ あの (人名) (人名) みんな できる 呼ぶ ma

(あなたはあの米継紅さんとかレースさんとかみんな呼べるんじゃないか。) 【CCL】

すでに研究室から離れてしまっているために、現在の状況は把握していない話し手は、「その後のことはわからない」と語る聞き手に (10) の a のように返答するが、続く聞き手からの返事も「多分」と憶測の域を出ない。研究室の状況は、話し手・聞き手ともに現場におらず、直接に経験していない事柄であるため「遠」情報となる。また、ゲストとして出版社に訪ねてきた「她 (彼女)」が同僚たちと会話をしているのを見て、話し手は b のように同僚に聞く。その女性にまつわる個人情報、共に出版社で仕事をしている話し手にも聞き手にも「遠」であるため、b は D タイプの例となる。

D (遠遠) :

(10) a. 知る限りはあんまり発展していないのではないかと… 【CSJ】

b. 她 不是 个 哑巴 嘛?

彼女 ではない 個 哑者 ma

(彼女はしゃべれないんじゃないかったっけ?) 【CCL】

### 3.3. 既知と未知を基準にした分類

木村・森山 (1992) は、中国語では、聞き手の情報の領域を設定しないと主張している。2 節にもあるように、彼らによれば日本語も中国語も、平叙文・疑問文は、「話し手情報の確定・不確定」および「聞き手情報への依存・非依存」という二つの観点から体系的に分類可能である。日本語の「ジャナイカ (ジャン)」と中国語の「嘛 ma」は共に「話し手情報の確定」・「聞き手情報への依存」を表す標識とされる。しかし、「運用上の違い」として両言語の差異について次のように述べられている。

(11) 木村・森山 (1992) の「聞き手情報配慮と文末形式」

日本語では、情報に対する「なわばり」意識が強固に存在し、当該情報が聞き手に近接す



るものである場合、聞き手に当該情報があるということを見做してはならず、同意を得るような言い方でなければならない。…中国語では、話し手自身がそう認定していれば、たとえ聞き手に近接する情報であっても、無標の平叙文で発話してかまわないのである。…つまり、中国語の場合、話し手の認識こそが基準となるのに対して、日本語の場合、聞き手の認識を談話の内部で尊重しなければならないのである。…

中国語では、聞き手にとっての「近」や「遠」という情報の領域を設定しないということは、同じ論文で挙げられている、次の日本語と中国語の例文で確認できると思われる。聞き手の好みは聞き手に「近」とされる情報であり、日本語では極めて不自然となるのに対して、中国語では例 (13) のように言うことができる。

(12) \*あなたは日本茶が好きです。<sup>7</sup>

【木村・森山 (1992: 264)】

(13) 你喜欢日本茶。

【木村・森山 (1992: 264)】

また、当該情報の把握をもう一度改めて問い直す「ジャナイカ (ジャン)」も聞き手に当該情報があると判断し、同意を得ようとする言い方と考えられるが、実際の使用においては独り言の使用もあれば、比較的低い年代におけるインフォーマルな文体の「じゃん」のように、聞き手に情報がなくても使用できる場合もある。聞き手に情報がなくても、あたかもあるかのように表現することは、不可能ではないのである。これらのことを敷衍し、「近遠」とは異なり、話し手中心の基準を立て、話し手にとっての確定情報を既知情報とし、聞き手に情報を確認する必要がある、聞き手情報へ依存するものを聞き手にとっての既知情報とする。そうでない情報をここで未知情報と呼ぶ。話し手または聞き手にとって、既知情報であるかどうかという基準で分類すると次のようになる。<sup>8</sup>

表 4

番号	知識状態	ジャナイカ	嘛 ma
E	近遠	57%	45%
F	近近	34%	45%
G	遠近	4%	1%
H	遠遠	5%	0%

表 3 と同じように、話し手にとっての「既知」と「未知」の境目に線を引いているが、「ジャナイカ (ジャン)」と「嘛 ma」のいずれも話し手の「既知」である情報をマークする用例が圧倒的に多かった。一方、E と F を比べてみると、「ジャナイカ (ジャン)」の方は 2 割ほどの差異

<sup>7</sup> 聞き手が催眠術にかかっていたり、記憶喪失であつたりするような聞き手の有する情報を無視できる状況でない限り非文となる。非文であることを「\*」で表記する。

<sup>8</sup> 本稿では「話し手情報の不確定」及び「聞き手情報への非依存」を「未知」と呼ぶことにする。



が存在するのに対して、「嘛 ma」の差異は1割未満である。「ジャナイカ (ジャン)」と「嘛 ma」の両者とも「既知」情報と共起しやすいが、「ジャナイカ (ジャン)」は、話し手の既知情報が未知の聞き手へと伝達されることを比較的好むように見える。

以下に、各タイプの例文を挙げる。Eタイプの例から順番に見ていく。(14)のaは絵画を展示する際のダイレクトメールについての会話からとった例である。aは、話し手が聞き手の相槌を聞きつつ、続けている発話の一部である。これは、経験者である話し手が未経験者である聞き手へと一連の手続きを伝える場面であるため、話し手にとっての「既知」情報であり聞き手にとっての「未知」情報であると考えられる。中国語の例のbの発話は詐欺に加担したと誤解された場面での反論である。「貴社の人に言われて協力した」という聞き手の主張に反駁しており、実際には聞き手の認識と違い、話し手を含む「我々」はそのことについて知らないのだと伝えている。

E (既知未知) :

(14) a. 一人に、一人大体五十枚、三十から五十枚ぐらいの予定で作るじゃん。 【CSJ】

b. 我们 压根儿 就 不知道 这码事儿 嘛。

我々 完全に まさに 知らない このこと ma

(私どもはそんなこと全然知らないんですよ。) 【CCL】

次の日本語の例は既出の例文である。日本人の二人が日本語のカタカナについて会話をしている。同じ日本語の母語話者で日本語を小さい時から習ってきた聞き手に対し、話し手はaのように述べる。中国語の例は聞き手にまつわる情報であり、「江湖」という名前の監督が紹介された際に、話し手がこの江監督本人にからかうように話しかけている。「江湖」という語は、文字通りには中国文学において「武術を身につけた人たちが所属する一般社会とは異なる特殊な世界」を意味する。親近感の表現として「馴染みのある名前だね」コメントしているわけである。

F (既知既知) :

(15) a. カタカナって基本角々じゃん。(=8a)

b. 江 导演， 您 这 名字 听着 很 熟 嘛？

(苗字) 監督 貴方 この 名前 聞いていて とても 聞き覚えがある ma

(江監督、お名前に聞き覚えがありますね。) 【CCL】

(16) a は夕食時の会話で、話し手がプレゼントの枕を受け取ろうとしている場面である。良い枕があったから買ったということが話題に出ている状況で、話し手が次のaのように促す。話し手は、まだプレゼントを受け取っていない段階で、「～って思っ」てと心境を表現している。これは、聞き手である家族がプレゼントを渡す動作をスムーズに行えるようにするための場繋ぎ的な発話である。「思っ」てで示された部分は自問的な内容であるため、話し手は「未知」と

考えられる。プレゼントする側である聞き手にとっては「既知」の情報と考えて良いであろう。中国語の例 b は既出のものである。チャリティーコンサートのことを話している聞き手に、同僚にもメンバーに入るように依頼している話し手が、さらに聞き手の知り合いも加えたらどうかと、b のように聞く。聞き手の考えを尋ねているため、話し手にとっては「未知」、聞き手にとっては「既知」であると考えられる。

G (未知既知) :

(16) a. なんかいい、いいものがあるんじゃないかって思ってた。 【CEJC】

b. 你把那米继红、蕾丝都可以叫上嘛? (=9b)

H タイプの中国語の例は見られず、日本語の例も少なかった。お酒の貯蔵についての会話で、話し手が「樽の中で何年かが問題であって瓶に入れてから何年かは関係ないんだ」と言いつつ、瓶に書かれた日付に関する推測を聞き手に a のように尋ねる。聞き手の答えによれば、瓶には二つの日付が書かれており、後続の会話では「わからない」とのやり取りが続く。推測を話す話し手にとっても「わからない」と主張する聞き手にとっても言及される情報は「未知」であると考えて良からう。

H (未知未知) :

(17) a. でも、ピアその書いてあるのは、瓶に入れてからの日にちじゃないか。 【CEJC】

b. (例なし)

### 3.4. 情報の新旧を基準にした分類

最後に話し手及び聞き手を中心に考える「近/遠」、「既知/未知」とは異なる観点から情報の分類を行う。Kuno (1980) は、先行文脈から復元し得るものを旧情報とし、文脈から復元することができない情報を新情報とする<sup>9</sup>。つまり、この分類では、会話の参加者と情報の関係は考慮されないということである。

(18) OLD (PREDICTABLE) INFORMATION: An element in a sentence presents old, predictable information if it is recoverable from preceding context.

NEW (UNPREDICTABLE) INFORMATION: An element in a sentence represents new, unpredictable information if it is not recoverable from preceding discourse.

この定義に従い、新旧情報を基準にしてデータの分類を行うと、割合は次のようになる。

<sup>9</sup> 久野 (1973) では、「新情報」は「新しいインフォメーション」や「文脈から予測することができないインフォメーション」などと呼ばれている。

表 5

番号	情報の新旧	ジャナイカ	嘛 ma
I	旧	18%	43%
J	新	82%	57%

ここから、「ジャナイカ（ジャン）」と「嘛 ma」のどちらも新情報と共起しやすいことがわかる。しかし、面白いことに、「ジャナイカ（ジャン）」は新情報と共起することが非常に多いのに対して、「嘛 ma」がマークする新旧情報の差はそれほど大きいものではない。以下にそれぞれの例を挙げる。

日本語の例 a は自宅で家族とご飯を食べながら野球中継を見ているときの発話である。各チームの順位を話しながら、「阪神今四位」、「三位ヤクルト」、「巨人」、「中日」、「広島」、「そのほか大勢」と語り合いながら話を続ける。既に会話に出てきている「大勢」という言葉を話し手が a のように少し間を開けてもう一度使う。同じ情報に再度言及しているために旧情報となる。(19b) では、仕事の中に出版社の上司が今の部署の人数配分について意見を求めてくる。仕事環境のことを話題にして世間話をしながら今の 6 人で良いのかと話し合うが、「月刊誌を担当するのに 6 人はきついだろう」という上司の発話に続けて、b のように付け加える。「自分も編集をやる人間だからわかる」ということを伝える一文である。編集の仕事にまつわる話題展開の中では、このことは復元可能であるため旧情報と考えられる。

I (旧) :

(19) a. 大勢じゃないか。【CEJC】

b. 我 也 是 搞 编 辑 的 嘛。

我 も だ や る 编 集 の ma

(私も編集をやる人間なんだから。)

【CCL】

新情報の例は前述の (14) と同じになるが、一連の発話において現れる a も聞き手との認識の違いを指摘するような発話 b も文脈からは復元できない新情報を含んでいる。

J (新) :

(20) a. 一人に、一人大体五十枚、三十から五十枚ぐらいの予定で作るじゃん。(=14a)

b. 我们压根儿就不知道这码事儿嘛。(=14b)

#### 4. 考察 : コーパスデータに見られる傾向

表 4 と表 5 で示したように、両構文ともに、話し手に近い、または既知である情報とよく共起する。このように類似の傾向が多く見られることはやはり、二つの文末形式「嘛 ma」と「ジャナイカ（ジャン）」が対応するという考えを支持する。前節の三つの表を次の図のようにまと

めると、このことが直感的に把握できるだろう。

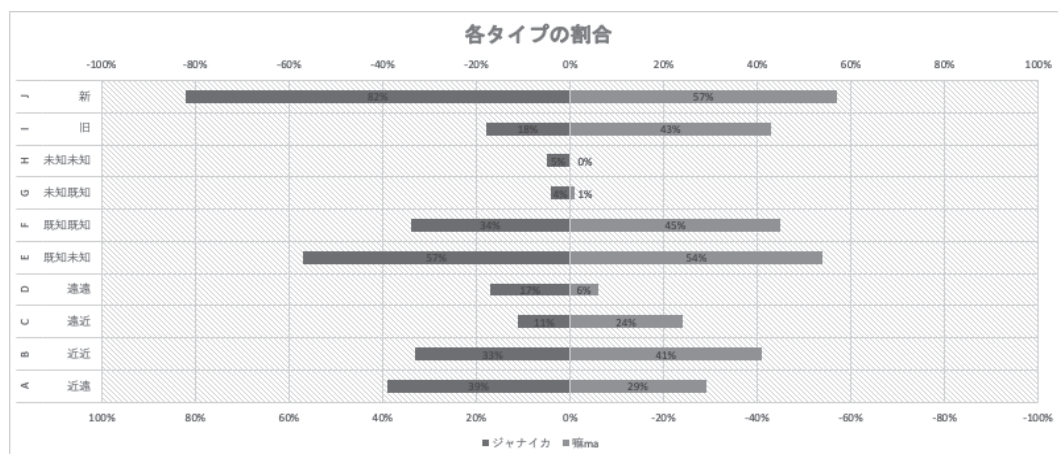


図 1

話し手に近い情報の割合はどちらも 7 割程度であるのに対して、話し手の既知情報と共起する割合は 9 割程度である。例文 (1) ・ (2) と似たような例であるが、例えば、ペンを手にしているながらそれを忘れて探し始めた聞き手に対して、次のように言うことができる。

(21) a. その手にあるじゃん。

b. 在 你 手里 嘛。

ある あなた 手の中 ma

一方、表 6 にあるように、「ジャナイカ (ジャン)」は新情報を多くマークするのに対して、「嘛 ma」のマークする情報は、新旧比率に偏りがあり見られないという注目すべき違いがある。つまり、「ジャナイカ (ジャン)」に比べて、「嘛 ma」は文脈から復元できる情報をマークすることが多いのである。例えば、ある同僚の仕事ぶりに文句を言った聞き手に対して、中国語では次のようにコメントすることができるが、日本語では同じように返答すると不自然に感じられる。

(22) a-1. あの若僧、文章一つ上手く書けない。句読点も間違えるんだ。

a-2. ʔ若者じゃないか (じゃん)。

b-1. 这小年轻， 写 个 文章 还 用错 标点符号。

この若僧 書く 一個 文章 まだ 使い間違える 句読点

b-2. 年轻人 嘛。

若者 ma

(b-1.この若僧、文章一つ書いたって句読点のミスをするんだ。

b-2. 若者なんだから。)

「小年轻 (若僧)」が用いられていることから、コメントの対象となる同僚は「年轻人 (若者)」であることが推測できる。また、同じ仕事場にいるため、このことは視覚的にも復元できる情報である。文脈から復元できる情報という点では、日本語であっても中国語であっても変わらないが、この場面では日本語の「ジャナイカ (ジャン)」の使用は難しい。「嘛 ma」と一緒に使われる「年轻人嘛」は、ただ「若者である」ということを表しているのではなく、文脈に合わせて「若者なんだから」という理由を示す機能まで担っているものであり、文脈から得られる情報とも共起しやすい。王 (2019) においても言及したように、話し手は「嘛 ma」を使用することで、主観的に捉えられた因果関係によって、当の情報が前後の文脈に結びつけられることを示す。この機能は日本語の「ジャナイカ (ジャン)」にはないように思われる。1 節で挙げた (3) もその一例である。このように弁明することは、聞き手が当時の状況を知らなくても自然であるのに対し、a-2 は聞き手も当時の状況を知っていなければ使えない。

(3) a-1. 私にどうしろと言うのか。彼自身が行こうとしていたんだから。

a-2. <sup>?</sup>私にどうしろと言うのか。彼自身が行こうとしていたんじゃないか。

b. 我 有 什 么 办 法, 他 自 己 要 走 的 嘛。

私 持 什 何 方 法 彼 自 身 怎 样 行 去 の ma

また、「ジャナイカ (ジャン)」は表 3 の「近遠」や、表 4 「既知未知」の用例が多いことから、話し手にとっての近・既知情報であると同時に聞き手にとっての遠・未知情報であるという、話し手にとって情報的に聞き手より優位である場合に現れやすいと考えられる。他方で、「嘛 ma」が用いられるのは話し手にとっての「既知」である場合がほとんどであり、聞き手の知識状態は使用条件に含まれないようである。例えば、聞き手の様子を見て、1 節で挙げた (4) のように休むようにアドバイスする場面で、「ジャナイカ (ジャン)」が使われる a-2 は不自然である。

(4) a-1. 疲れたら一休みしなよ。

a-2. <sup>?</sup>疲れたら一休みするじゃないか。

b. 累 了 就 休 息 一 下 嘛。

疲 了 就 休 息 一 下 嘛

また、イントネーションは異なるが、次のように、文脈から復元できる情報を表す事例の極端なケースもある。次の場面では「嘛 ma」は聞き手の発言を即座にそのまま引用する文にも用いられるのに対して、「ジャナイカ (ジャン)」の使用は不自然に感じられる。コントのような場面で、大袈裟に「SOS」と叫びながら部屋に入ってくる同僚に対して、「何言ってるの」と会話を始める次のやり取りである。質問を投げかけてくる、SOS を知らないまたは知らないふりを

している聞き手に対して「SOS は国際遭難信号」であると教えるものだが、聞き手も同じセリフで言い返すことは日本語では難しい。

(23) a-1. SOS! SOS!

a-2. 何叫んでるの？

a-3. SOS を知らないの？ 国際遭難信号だよ。

a-4. <sup>?</sup>SOS は国際遭難信号じゃないか（じゃん）。外国人に言わないとね。

b-1. SOS! SOS!

SOS SOS

b-2. 你 这 喊 什么 呢？

あなた これ 叫ぶ 何 ne

b-3. 这 你 都 不知道， SOS 是 国际通用 求救信号。

これ あなた さえ 知らない SOS だ 国際通用 救援信号

b-4. SOS 是 国际通用 求救信号 嘛。 得 跟 老外 说。

SOS だ 国際通用 救援信号 ma すべき と 外国人 言う

(b-1. SOS! SOS!

b-2. あなた今何叫んでいるの？

b-3. こんなことも知らないの？ SOS は国際遭難信号だよ。

b-4. SOS が国際遭難信号なんだったら、外国人に言わないと。）

聞き手から得た情報をそのまま自分の発言の根拠にする用法は、日本語の「ジャンナイカ（ジャン）」には見られない。前述したように、「ジャンナイカ（ジャン）」が、主観的に捉えられた理由を示す機能を持たないこともその一因である。また、会話において聞き手から得た情報は、話し手にとって聞き手よりも優位であると見なし難いことも関係していると考えられる。例のように、言われた内容を即座に受け入れ、そのまま聞き手に言い返すのに「ジャンナイカ（ジャン）」は使いにくい。しかし、同じ場面において「嘛 ma」は自然に使うことができる。聞き手から得た情報を「嘛 ma」を伴い提示することで、「あなたも言ったでしょう」、「あなたが言ったからわかるでしょう」という聞き手が同意することを決めつけるような含みを持たせ、「国際遭難信号なんだったら」と話し手自身の発言の根拠として利用しているのである。

以上の傾向を踏まえてまとめると、話し手の情報のステータスという点では「ジャンナイカ（ジャン）」と「嘛 ma」は一致するが、発話現場を含む文脈レベルでは両者はやや異なる振る舞いをする事がわかる。例 (19) や (20) のように、「嘛 ma」は文脈からの情報と比較的自由に共起できるのに対して、「ジャンナイカ（ジャン）」は難しい。「嘛 ma」が使われることで前後の文脈と因果的に関連付けることが可能であるが、「ジャンナイカ（ジャン）」にはそのような働きが薄い。つまり、話し手の認識こそが基準となる中国語の文末形式の「嘛 ma」は、聞き手の認識を尊重しなければならない日本語の「ジャンナイカ（ジャン）」に比べると、主観的な因果関係で



捉えるような情報を文脈から積極的に取り入れやすいということであろう。これらのことが、木村・森山 (1992) が指摘する両者の運用上の違いの内実である。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では情報構造の観点から日本語・中国語の二つの文末形式を検討した。両者を比較した多くの先行研究が示すように、話し手に「近」または「既知」である情報をマークすることに関して、日本語の文末表現「ジャナイカ（ジャン）」と中国語の語気助詞「嘛 ma」は同様の振る舞いを示す。しかし、聞き手情報への配慮や文脈からの情報の取り入れ方に関しては違いがある。図 1 から分かるように、「ジャナイカ（ジャン）」は「嘛 ma」に比べて共起情報に偏りが見られる。「嘛 ma」は文脈からの情報にも積極的に使われるが、「ジャナイカ（ジャン）」の使用には話し手の控えめな態度が見られる。これは、情報のなわ張り理論の枠組みで中国語を論じる楊 (1994) が指摘する、「ある新しい情報を自分のなわ張りに取り入れる過程について言うならば、中国語は日本語よりも容易に（速く）取り入れることができる」ということとも整合的である。二つの形式の特徴は、木村・森山 (1992: 270) が指摘する、「よく言えば気配り、悪く言えば対人恐怖症的な『日本語』像と、よく言えば自立的、悪く言えば一方的な『中国語』像」と呼応しており、日中両言語の特徴を反映したものと言えるかもしれない。

情報構造に注目した研究を推し進めることで、両構文の相違点（たとえば、一名詞句文の場合、「ジャナイカ」は近称指示詞と共起しやすく、「嘛 ma」は類称名詞と共起しやすいこと）の包括的な説明が可能になるものと思われる。今後の課題としたい。

## 参考文献

- 愛知大学中日大辞典編纂所編 (2010) 「中日大辞典 第三版」 大修館書店
- 相原茂編集 (2010) 「講談社 中日辞典 第三版」 講談社
- 井上優 (2015) 「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」研究発表会ハンドアウト 国立国語研究所
- 井上優 (2016) 「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」 『日本語文法研究のフロンティア』 くろしお出版
- 井上優・黄麗華 (2017) 「中国語の文末助詞“嘛”の意味分析」 『中日言語研究論叢:楊凱榮教授還暦記念論文集』 朝日出版社
- 岩畑貴弘 (2010) 「『情報のなわ張り理論』再考」 『人文研究』, 172 号, 55-79
- 王瓊 (2019) 「中国語語気助詞「嘛 (ma)」による因果関係の提示—情報のなわ張り理論を用いる考察—」 『東京大学言語学論集』 第 41 号, 東京大学人文社会系研究科・文学部言語学研究室, 353-366.
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論:言語の機能的分析』 大修館書店
- 神尾昭雄 (1998) 「第 I 部 情報のなわ張り理論:基礎から最近の発展まで」 『談話と情報構造』 研究社出版



- 神尾昭雄 (2002) 『続・情報のなわ張り理論』 大修館書店
- 木村英樹・森山卓郎 (1992) 「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」 『日本語と中国語の対照研究論文集』 くろしお出版
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2020) 「『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析」 『国立国語研究所論集』 18, 17-33
- 楊達 (1994) 「中国語対話文における語用論的研究—情報のなわ張り理論を通じて—」 『成城文藝』, 146 号, 22-41
- 呂叔湘 (主編) (1980) 『現代漢語八百詞』 商務印書館 (菱沼透・牛島徳次 (監訳) (2003) 『中国語文法用例辞典』 東方書店)
- 久野暲 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店
- Kuno, S. (1980). Functional Syntax. In Edith A. Moravcsik, and Jessica R. Wirth (Eds.), *Syntax and Semantics (Vol.13) : Current Approaches to Syntax*. Academic Press. 117-135.
- 野田寛達 (2013) 「現代汉语程度副詞の機能分析及其分類—基于信息領屬理論」 『現代中国語研究』, 15 号, 72-82
- ZHAN, Weidong, GUO, Rui, CHEN, Yirong, (2003). *The CCL Corpus of Chinese Texts: 700 million Chinese Characters, the 11th Century B.C. - present*, Available online at the website of Center for Chinese Linguistics (abbreviated as CCL) of Peking University, [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus)

# Chinese *-ma* (嘛) and Japanese *-jan(aika)*: A Contrastive Analysis of Chinese and Japanese Sentence-final Forms in Terms of Information Structure

WANG Qiong

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

**Keywords:** sentence-final forms, information structure, corpora, contrastive analysis

## Abstract

This paper is an attempt to characterize the roughly corresponding Japanese and Chinese sentence-final particle constructions *-jan(aika)* and *-ma* (嘛) by comparing them in terms of information structure. Data collected from some corpora are evaluated according to the following criteria: (i) proximal vs. distal, (ii) known vs. unknown, and (iii) old vs. new. It is shown that (1) while *-jan(aika)* has a strong tendency to mark new information, *-ma* (嘛) is not biased toward either old or new information and (2) *-jan(aika)* is used preferentially when the speaker is informationally superior to the addressee, whereas *-ma* (嘛) is most likely to occur with old information, irrespective of the addressee's state of knowledge, which makes it easier for *-ma* (嘛) than *-jan(aika)* to mark information recoverable from the context. It is further suggested that these contrasting characteristics are manifestations of some general differences between Chinese and Japanese.

(おう・けい 東京大学大学院)